

学んで話して楽しいにほんご教室

夢気球だより

「夢気球だより」編集部 発行

〒610-0121

城陽市寺田西ノ7-4西邦ビル2階 城陽市国際交流協会内

電話 0774-57-0713

ご意見・投稿先 nicyama0323@gaia.eonet.ne.jp <西山雅文>



7月13日 日本語支援ボランティア養成講座修了

日本語支援ボランティア養成講座修了

5/11~7/13

「夢気球独自の養成講座を終えて」

「地域日本語教育支援」をしている夢気球では日本語をそつなく教えることが決して最重要課題ではない。文法や音声など日本語に関する知識、教える技術、そして支援に関する考え方や価値観、この三つがバランスよく受講者の中で育って欲しい。養成講座でやれることには限りがあるのだから、その後、受講者が生涯学習として学び続ける内発的動機の種類を養成講座で時こう。そういう思いで2013年日本語支援ボランティア養成講座を実施しました。

今回、講義と同時に実習にも重きを置こうとした様子。どのクラスもという方針が運営委員とすばらしい。また来た会場で決まっていた。現在、夢気球で活動されている支援者はそれぞれが自分らしさを生かし、あるクラスは学校日本語教育に限らずに近づく、ある人のクラスは交流が主体で和気あいあいといった雰囲気がいっぱいで、



5/11 (第1回) ペアワーク

正に多文化共生といった様子。どのクラスもすばらしい。また来た会場で決まっていた。現在、夢気球で活動されている支援者はそれぞれが自分らしさを生かし、あるクラスは学校日本語教育に限らずに近づく、ある人のクラスは交流が主体で和気あいあいといった雰囲気がいっぱいで、

内省とアイデアが多く盛り込まれていました。受講者たちの質の高さを私自身が実感した瞬間でした。やはり日本語母語話者が初級レベルの学習者のふりをするにも限度があり、来期は是非外国人学習者にも加わってもらったり、各グループに運営委員さんも入ってもらおうなどと、建設的な意見が聞かれました。

研修 村田美子

第7回 国際サロン 「トルコってどんなところ」

7月5日、トルコ出身で城陽市在住のアブドラ・ヤールオールさんを迎え、参加者16名で第7回国際サロンを実施しました。持参されたトルコチャイと手づくりのお菓子を味わいながら、楽しいひと時を過ごすことができました。



トルコチャイに興味津津

をとおして地理的な概要を話され、遊牧民の時代からオスマントルコの時代へ、更に今の政教分離のトルコ共和国誕生に至る歴史の流れの説明を聞きまし

第7回支援者交流会 (おしゃべりの集い)

今回(5月31日・土)は少し趣向を変えて、学習者であり又交流協会の中国語の講師もさ

結びに、「ヤールさんは今後も日本にずっと住まれますか」との問いかけに、「自分が何をやるかによって住む国が決まります」とのこと。さらに、大きな財産はないが「家族が財産だ」という話を

帰国を前にして

〈中国出身〉 胡 偉洪

後一ヶ月で帰国する私には、嬉しくてたまらないです。すぐ帰られるのはうれいですが、3年に暮らした日本、そして、優しく教えてくださった先生たちと別れるのは少し名残惜しく感じました。日本に来てから、日本語を勉強したい気持ちを城陽市国際交流協会の先生に重視され、



※原文のまま掲載させて頂きました。 編集部

イギリスから帰国して



帰国時ヒースロー空港にて

私は半年間イギリスのイーストボーンという所に語留学をしていましたが、7月12日に帰国しました。帰国して数日が経ち感じることは、留学して本当に良かったということです。決めるまでは大いに悩み、調査の間を割きましたが、全て無駄ではなかったです。

た！をしたこと、様々な価値観と文化に触れたこと、そして、出会いと別れ！。私たちが再会を誓いました。他にも知り合いになったイギリス在住の方々とも再会を約束したので、どのような形になるかわかりませんが再びイギリスへ行くつもりです。

夢気球メンバー 鈴村亜以子

教室通信

中国の実習生の胡偉洪さんが、3年間の実習が終わり、6月8日に帰国されました。



胡さん、またお会いしましょう!!

学習者の皆さんも七夕にそれぞれの願い事を託されました。



編集部